

外国語授業におけるペアワークの有効性

—— ドイツ語授業での実践を基に ——

吉 満 たか子

広島大学外国語教育研究センター

1. はじめに

どの外国語教師も、学習者が当該の言語に関するより深い知識やより高い運用能力を身に付けることを願っているはずである。そのため教師は教材を選び、様々な方法を用いて授業を行うが、授業が教師の思惑通りには進まない場合がある。筆者に関して言えば、100パーセント満足できるような授業をすることは稀で、ほぼ毎時間、何らかの問題が授業中に生じているように思われる。それは例えば、「その時間に予定していた課題をすべてこなすことができなかった」や「何かをうまく説明できなかった」、「前回学んだことを学生がすっかり忘れていた」、「学生の反応が今ひとつだった」あるいは「今日は欠席者が多かった」など枚挙に暇がない。

ではこれらの問題は何に起因するのか。授業を構成する要素は、授業内だけに限定して考えれば¹⁾大きく分けて「学習者」、「教師」、「教材」、「教室や機材」の4つがある。この4つはそれぞれ物理的な側面を持ち、「学習者」や「教師」には心理的・社会的な側面も存在する。授業で生じる様々な問題は、これらのいずれかの側面にその原因を見つけることができる。また、原因が複数の側面に起因しているような場合もある。

例えば、「教科書に書かれている説明を学習者の多くが理解できない」という問題は、「教材」である教科書そのものに起因しているかもしれないし、それを使用して説明する「教師」に起因しているのかもしれない。「私語が多い」という問題は、「教材」の内容が面白くないのかもしれないし、学習者にとって難しすぎる又は簡単すぎるのかもしれない。あるいは、「教師」に対する反発の現われかもしれないし、「学習者」にとって授業よりも重要な事柄をクラスメートと話しているのかもしれない。

これらの問題は、「具体的な例を挙げる」や「図解をする」、「副教材を使用する」、「別の練習問題を導入する」、「私語をやめるよう注意をうながす」などの方策をとることで解決し得る。しかし、「教室の机が固定されている」や「教室が狭い」といった物理的な問題は、解決できないことも多い。

「解決できるかもしれないが、できないかもしれない」問題もある。それは、学習者や教師の心理的な問題である。心理的な問題は、授業の過程だけでなく、学習の成果にも大きな影響を及ぼす(吉満 2004)。特に、学習に対する姿勢や動機づけといった情意的側面に起因する問題は、解決するのに時間を要したり、時間をかけても解決できない場合もある。例えば「ドイツ語は難しい」、「授業はつまらない」と一度思った学習者の考えを変えることは容易ではない。授業を分かりやすく、楽しいものに変える試みをして、それがすぐに効果を発揮する保証はない。しかしそうだからと言って、解決をあきらめてしまうわけにはいかない。

本稿で紹介する座席指定やペア指定の導入は、授業で起こり得る心理的な問題に対する一つの「予防策」である。筆者はこれまでも、座席指定をすることでクラスの雰囲気が悪くなったり、私語が減ったり、動機づけの維持ができたりするを経験的に感じてはいたが、2006年度に広

島大学で担当した2つのクラスではそれらを継続的に導入し、それに対して学習者がどのように感じているかアンケートを用いて調査した。本稿では座席指定とペア指定の実践方法とアンケート調査の結果を報告し、授業におけるペアワークの有効性について考察する。

2. 授業での作業形態

外国語授業における作業形態には、全体授業 (Plenum), 個別作業 (Einzelarbeit), ペアワーク (Partnerarbeit), グループワーク (Gurppenarbeit) の4つがある。Schwerdtfeger (1989) はグループワークを「3名から6名の学習者が課題を独立して行うこと」、ペアワークを「2名での行う場合のグループワーク」としている。また、どの作業形態を選ぶかは、授業全体の学習目標または部分的な学習目標に左右されるとしたうえで、「テキストの読解」を例にそれぞれの作業形態における学習者間のインタラクションを次のようにまとめている (Schwerdtfeger 2001, p.96)。

作業形態	インタラクション
全体作業 (Plenum)	例えば教師がテキストを読み上げ、学習者がそれを聞く、あるいは教師が質問し、学習者がそれに答えるなど、全体作業が授業の大部分を占める場合には、学習者間のインタラクションはほとんど生じない。しかし、グループワークの結果を全体作業として発表させる場合には学習者間のインタラクションが生じる。
個別作業 (Einzelarbeit)	インタラクションは生じない。学習者は1人でテキストを読む／聞く。場合によっては知らない単語に下線を引いたり、辞書で意味を調べたりする。
ペアワーク (Partnerarbeit)	学習者は2人でテキストを読み、互いに分からなかったことを尋ねあったり、説明しあったりできる。
グループワーク (Gurppenarbeit)	ペアワークと同様のインタラクションが生じる。それ以外にも、例えばそれぞれのグループに1つのテキストの異なる段落を与えるような場合には、グループ間でのインタラクションが生じる (段落の順番を話し合い、段落の並べ替えをする)。

(筆者訳)

3. ペアワークやグループワークの目的

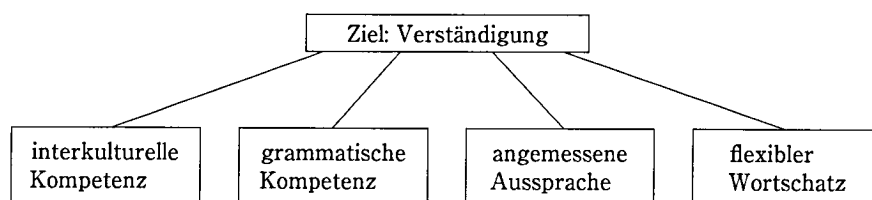
Schwerdtfeger (1989) は、グループワークやペアワークの利点を、グループ内で生じる学習者間のダイナミックな関係を学習のプロセスに役立てることだと述べている。グループ内における学習者間の関係は、作業中に生じる非言語コミュニケーション (視線を合わすことや表情、身振りや手振り等) によって強化される。またグループやペアの組み合わせが適切であれば、グループ内では個人的な価値観や規範よりも、グループ全体の価値観や規範が優先されるため、時には強い者が控えめになり、おとなしい者がいつもより積極的になることもある。そのため、教室内での活動がより創造的になったり、学習者間で話すことが通常より容易になると述べている。そして、ペアワークやグループワークを授業で導入する目的として次の4つを挙げている (Schwerdtfeger 2001, pp.80-87)

1. 他者との理解 (Verständigung mit anderen)
2. 学習の仕方を教える (Lernen lehren)
3. 授業の外でも外国語でコミュニケーションができる能力を養う
(ungeschützte Kommunikation ermöglichen)

4. 学習に対する積極的な態度を養う (positive Emotionen vermitteln)

3.1 目的 1：他者との理解

Schwerdtfeger (2001) は「他の話者を理解できるようになるために、学習者は外国語を学び、使えるようになる」のが外国語授業の目的であるとしている。そしてそのためには、「異文化を理解する能力 (interkulturelle Kompetenz)」、 「文法能力 (grammatische Kompetenz)」、 「適切な発音 (angemessene Aussprache)」 および 「柔軟な語彙 (flexibler Wortschatz)」 が必要だと述べている。

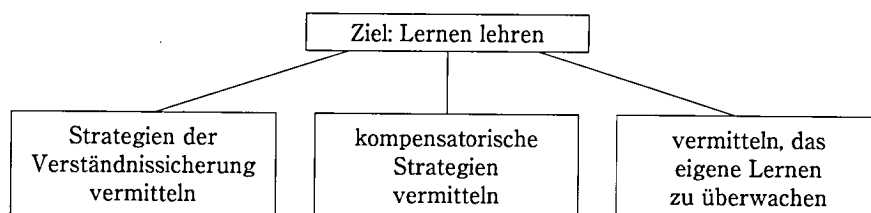


(Schwerdtfeger 2001, p.80)

外国語を使用して他者との理解を図るためには、当該言語が話される国の実情や伝統に反しない振る舞いが必要であり、そのような振る舞いを可能にする知識や姿勢が「異文化を理解する能力」である。「文法能力」とは、例えば人称変化や語尾変化、語順のようなその言語の形式や規則に関する知識だけではなく、それぞれの語や表現が、実際の言語コミュニケーションでどのような機能を果たすのかを知っていることを指す。「柔軟な語彙」とは、造語能力や語彙を分析的に理解する能力である。これらの能力に加え、「適切な発音」が言語コミュニケーションにおいては必要なのである。

3.2 目的 2：学習の仕方を教える

「学習の仕方を教える」は教師から見た目的であり、学習者の視点に立てば「学習の仕方を学ぶ」となる。これは、「理解を確かなものにするストラテジーを教える (Strategien der Verständnissicherung vermitteln)」、 「補完するためのストラテジーを教える (kompensatorische Strategien vermitteln)」、 「自分の学習をチェックすることを教える (vermitteln, das eigene Lernen zu überwachen)」 の3点を教えることである (Schwerdtfeger 2001)。



(Schwerdtfeger 2001, p.85)

「理解を確実なものにするストラテジー」とは、理解できないことを相手に伝える、またそれについて質問するためのストラテジー（例えば Können Sie das bitte wiederholen? 等の表現を使えるようにすること）である。「補完するためのストラテジー」とは文法や語彙に関しての知識が足りない場合に、既知の語彙や知識を駆使して言い換える方略を指す（例えば物の名称がわからない場合に、Ich brauche es für... 等と説明する）。「自分の学習をチェックするストラテジー」とは、学習者自身が自分に最も適した学習方法（例えば一人で勉強するのがいいのか、二人のほうがいいのか、単語を覚えるためには書くのがいいのか、音で覚えるほうがいいのか等）を認識することである。

3.3 目的 3：授業外でも外国語でコミュニケーションができる能力を養う

学習した外国語を用いてコミュニケーションを行うことは、授業内で行う場合と授業外で行う場合では、その条件が大きく異なる。教室という閉ざされた空間で行われるコミュニケーションを Schwerdtfeger は „geschützte Kommunikation“（保護されたコミュニケーション）と呼び、教室内でクラスメートと行う会話練習だけでは ungeschützt（保護されていない）な状態にある教室外でのコミュニケーションを可能にする能力を身に付けるのは難しいとしている。教室外でのコミュニケーションを可能にする能力を養うために Schwerdtfeger は、インターネットを使って当該言語の母語話者とやり取りをすることや、学習者の身近にいる母語話者にインタビューすることなどを提案している。

3.4 目的 4：学習に対する積極的な態度を養う

学習者が学習に対して楽しみや喜びを感じることができるようになること、つまり内発的動機づけが喚起されることは、外国語のみならずすべての学習における最も重要な目的である。学習者が授業を「楽しい」と感じるためには、教室内の雰囲気や学習に対して前向きであり、与えられる課題も学習者の意欲を強化するような物や、学習者の感情を言語で表現できるようなものが望ましいと Schwerdtfeger は述べている。

3.5 Schwerdtfeger が提唱する目的の妥当性

Schwerdtfeger が提唱する4つの目的を概観したが、日本における外国語授業においてペアワークやグループワークを導入する際に、これらの目的を掲げることは果たして妥当であろうか。筆者の経験では、「他者との理解」、「学習の仕方を教える」および「学習に対する積極的な態度を養う」という目的は、妥当であると言える。しかし、「授業外でも外国語でコミュニケーションができる能力を養う」という目的は、日本の現実からすると必ずしも妥当であるとは言えない。

Schwerdtfeger は「授業外でも外国語でコミュニケーションができる能力を養う」ために、「教室外」の母語話者パートナーと学習者がコンタクトを取ることを提案している。EU 諸国であればこのようなパートナーを見つけることはそれほど難しいことではないが、例えば日本の大学でドイツ語を学んでいる学習者にとって、教師以外のドイツ語を母語とする相手と接することは稀である。また、たとえ接触する機会があったとしても、コミュニケーションを取るためには、ある程度の語学力が前提となる。したがって、ドイツ語を大学で初めて学ぶ学習者（特に学習の初期段階）にこの目的のためにペアワークを導入するということは不可能ではないが、すべてのペアワークやグループワークにこの目的を掲げることは不可能であり、その必要もない。

4. ペアやグループの作り方

授業におけるペアやグループの作り方として Schwerdtfeger は次の 3 つを挙げている (Schwerdtfeger 2001, pp.100-103)。

- 1) 近くに座っている学習者同士の組み合わせ (Nachbarschaftsgruppen)
- 2) 偶然による組み合わせ (Zufallgruppen)
- 3) 学習者に選択をさせた組み合わせ (Wahlgruppen)

1) は、作業に適した人数に応じたグループを教師が座席に沿って機械的に作る方法で、教師は身振りでの学習者が 1 つのグループになるのかを指示をする。2) ではくじ引きやカード、課題を与えてグループを作らせる。3) では学習者に自由にグループを作らせたり、学習者の取り組みたいテーマや役割に応じてグループを組ませるという方法である。いずれの場合にも教師は、学習者への指示、つまりグループの作り方を明確で簡潔に伝えなければならない。また、どのグループがどこへ着席するかということもあらかじめ決めておくことよい。

5. 学習に効果的なグループとは

Schwerdtfeger (1989) によれば、グループワークやペアワークを導入する利点は、グループやペアを作ることで学習者間のダイナミックな人間関係が生まれ、組み合わせが適切であれば通常よりも学習者間での話が弾み、より創造的な結果が生み出されることにある。

では、「グループやペアの組み合わせが適切である」というのはどのような場合であろうか。筆者の経験では、仲の良いクラスメート同士がペアやグループを組んで作業をすることが、必ずしもよい結果をもたらすとは限らない。後述のアンケート調査にも見られるが、気心の知れた仲間に対する甘えや照れ、緊張感の無さから、作業に集中できなかつたり、きちんと課題を行わなかつたりすることもある。逆に、互いに反発しあうような相手と作業をしなければならない場合には、緊張感はあるものの、共同作業をうまく行おうという気持ちが起こらず作業が中途半端になってしまつたりする。いずれの場合も、教室外での日常生活における学習者間の人間関係がそのまま授業に持ち込まれており、それが学習のプロセスにはマイナスの影響を与えたことになる。

このような現象を授業から完全に排除することは不可能ではあるが、どのクラスメートと作業をすることになっても嫌悪感や疎外感を持つことのないクラスの雰囲気を作ることで、ペアワークやグループワークはその効果をより発揮することになる。また、ペアワークやグループワークを多く導入することで、誰とでも作業をすることに慣れ、それが結果としてクラスの雰囲気を良くすることにつながるのではないだろうか。このような考えから筆者は、担当する 2 つのクラスにおいて、異なる条件および方法で座席指定やペアの指定を継続的に導入する試みを行った。また、それぞれのクラスで、学習者が座席やペアの指定についてどのように感じ、どのように取り組んでいたかを知るべくアンケート調査を行った。以下では座席やペア指定の実践を紹介し、学習者のアンケートを基に座席指定やペアの指定、そしてペアワークの効果について考察する。

6. くじ引きによる座席指定の試み

くじ引きによる座席指定を行ったのは、広島大学医学部のクラスである。学生は全員 1 年生で、前期に 36 名、後期に 37 名が受講した。このクラスでの授業は、教養教育科目であるベーシックドイツ語 I (前期) および II (後期) で、学生は前後期ともに週 2 コマの授業を履修する。筆者は

このクラスを週2コマとも（月曜日および木曜日）担当した。

座席指定を行ったのは毎週月曜日で、木曜日の授業では指定は行わず、学生は自由に着席できるようにした。教室は月・木ともにLL教室で、4人が横に並んで着席する机が通路を挟んで横二列、縦六列に並んでいる教室である。くじは正方形のメモ用紙を四等分したものを人数分用意し、そこに1から9まで（後期は1から10まで）の数字を4枚ずつ書き、それを折りたたんで箱の中に入れたものであった。それを学生が引き、その番号の机に着席するというようにした（図1）。

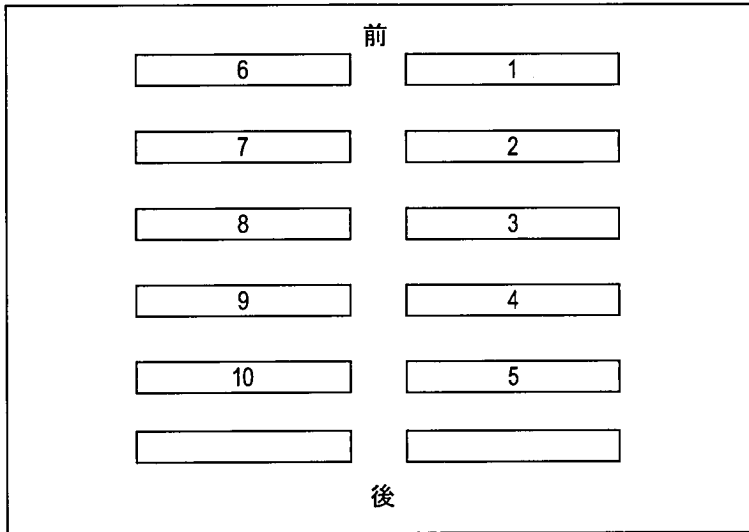


図1 LL教室での座席とくじの番号

くじ引きで座席指定を行うことは、前期の第1回目の授業において予告し、第2回目の授業から導入した。学生達はこのシステムの導入に、当初は戸惑っていたようである。また、最初の数回はくじを引くことを忘れていたり、引いてもその番号がどの列なのかがわからず、着席するまでに時間がかかることもあったが、1か月を過ぎる頃には慣れ、教室へ入ってくるとこちらが何も言わなくてもまずくじを引きに来るようになり、着席にも時間がかからなくなった。

この教室では、1台の机に4名が横に並んで着席するため、隣に座った者同士でペアになるよう指示した。授業は座席を指定した時もそうでない時もウォーミング・アップとして、まず教師が学生全員にドイツ語であいさつし、それに続いて学生がパートナーにあいさつをし、相手の調子を尋ねることから始めた。また、互いに自己紹介をさせたり、例えば相手の好きな食べ物や飲み物・趣味などを尋ねるといった短い会話練習を必ずさせたりした。その際には、できるだけその前の授業で学習した項目が復習できるような課題を与え、場合によってはペアでの練習の後、全体作業で数人の学生に質問し答えさせることも行った。

6.1 アンケート調査

アンケート（資料1）は2006年12月16日に実施し、当日出席していた33名から回答を得た。アンケートは無記名とし、成績には全く関係がないことを口頭でも説明した。

6.1.1 くじ引きでの座席指定についての印象

くじ引きでの座席指定についてどう思ったか、アンケートでは前期と後期それぞれの印象を5段階で尋ねた(表1)。前期には「好ましくない」と思った学生が1名いたが、後期には「好ましくない」や「どちらかといえば好ましくない」と回答した学生はおらず、約3分の2が「どちらかといえば好ましい」もしくは「好ましい」と回答しており、座席指定が概ね好意的に受け止められたことが分かった。

表1 くじ引きによる座席指定をどのように思いましたか？

	前 期	後 期
1. 好ましくない	1	0
2. どちらかといえば好ましくない	0	0
3. どちらでもない	11	12
4. どちらかといえば好ましい	9	9
5. 好ましい	12	12

前期に「好ましくない」と答えた学生が1名いた。この学生は後期には「どちらでもない」と回答していたが、その理由は前・後期ともに挙げていなかった。また、前期には「どちらかといえば好ましい」と回答していたが、後期は「どちらでもない」と回答した学生が1名いた。この学生は理由として、「ある程度友達ができたから」と述べていた。この2名以外については、前・後期とも同じ回答であった。

6.1.2 ペアワークでの自分の態度

ペアワークを行う際の自分自身の態度について、座席指定時と自由な座席での場合とそれぞれ5段階で評価をしてもらった(表2)。

大半の学生が、座席指定時および自由座席時の両方で「どちらかといえば協力的」または「協力的」と回答している。これは、誰とペアワークを行おうがあまり態度に変化がなかったものと読み取れる。

「どちらかといえば非協力的」と回答した学生の中には、座席指定の有無にかかわらず「どちらかといえば非協力的」と回答している学生が1名いた。この学生は、くじ引きによる座席指定を「好ましくない」と回答した学生で、ペアワークの自由記述(問13)において、「ペアより1人のほうが集中できると思う」と答えていることから、他人と作業をすることを好まず、それが座席指定についての印象や作業中の態度にマイナスの影響を与えたと推測できる。

別の学生は、座席指定時には「どちらかといえば協力的」と回答していたが、自由座席時には「どちらかといえば非協力的」であったと回答している。この学生は、後述するペアワークでの取り組み方について、座席指定時には「どちらでもない」、自由座席時には「どちらかといえば集中できなかった」と回答している。くじ引きによる座席指定の自由記述では「結構楽しくできた」と述べていることから推測すると、この学生にとっては、自由な座席よりくじ引きでの座席指定のほうが好ましかったようである。

表2 ペアワークをする際の自分の態度

	座席指定時	自由座席時
1. 非協力的	0	0
2. どちらかといえば非協力的	2	3
3. どちらでもない	4	5
4. どちらかといえば協力的	15	12
5. 協力的	12	13

6.1.3 ペアワークにおけるパートナーの態度

自由な座席の場合、気の合ったクラスメートと隣同士で着席するため、やはり「協力的な人が多かった」という回答が多くなっている。

座席指定時に「どちらかといえば非協力的な人が多かった」と回答した学生も、自由座席でのパートナーについては「どちらかといえば協力的な人が多かった」と回答している。この学生は座席指定のデメリット（問11）について、いずれの選択肢も選んでおらず、その他として「厄介な人に当たると大変」と記述している。しかしながら、座席指定を前・後期とも「好ましい」と感じており、座席指定についての自由記述では「このまま続けていっていいと思う」と述べている。おそらく、共同作業をしにくい相手と偶然何度も隣同士になった、あるいは「厄介」だったことの印象が強く残っているのであろう。

自由座席時で「どちらかといえば非協力的な人が多かった」と回答している2名の学生は、いずれも授業への取り組み方について、座席にかかわらず「どちらかといえば集中できた」と回答している。座席指定については、前期は「どちらかといえば好ましい」と「どちらでもない」、後期はいずれも「どちらでもない」と回答している。このうちの1人は座席指定時の自分の態度を「どちらでもない」と回答していたが、自由座席時には「どちらかといえば非協力的」と回答している。これは、後述するインテンシブコースでの調査結果に見られるような「親しい相手との馴れ合い」が作用しているのではないかと考えられる。

表3 ペアワークでのパートナーの態度

	座席指定時	自由座席時
1. 非協力的な人が多かった	0	0
2. どちらかといえば非協力的な人が多かった	1	2
3. どちらでもない	3	4
4. どちらかといえば協力的な人が多かった	18	10
5. 協力的な人が多かった	11	17

6.1.4 課題や授業への取り組み方

課題や授業への取り組み方については、座席指定時と自由座席時の回答数がいずれの項目も同じとなっている。座席の指定の有無による取り組み方への影響は、ほとんどないように思われる。

表4 課題や授業への取り組み方

	座席指定時	自由座席時
1. 集中できなかった	0	0
2. どちらかといえば集中できなかった	1	1
3. どちらでもない	11	11
4. どちらかといえば集中できた	11	11
5. 集中できた	10	10

数の上では同じ結果となったが、座席指定時と自由座席時で異なる回答をしている学生が7名いた。そのうち、座席指定に対してより高い評価（より集中できた）を回答した学生は4名、自由座席に対してより高い評価を回答した学生は3名であった。評価の差異（表5）はさほど大きくないが、1名（表5、学生E）は自由座席時の集中度がより高いと感じている。この学生は、くじ引きによる座席指定のデメリットとして「授業に集中できない」、「相手に気をつかう」、「会話がはずまない」の3つを挙げており、座席指定についての自由記述でも「どちらかといえば自由席にしてもらいたいのので、あまりくじ引きはしたくない」と否定的な意見を述べている。この学生は、座席指定時のパートナーの態度として「どちらかといえば協力的な人が多かった」を選んでいる半面、自分の態度として「どちらかといえば非協力的」を選んでいる。そして自由座席時の自分の態度として「どちらかといえば協力的」を選択している。親しいクラスメートとは進んで作業をするが、あまり親しくないクラスメートには協力しないという態度がうかがえる。この学生にとっては親しくない相手とのコミュニケーションが心理的に負担となり、学習を阻害していたとも考えられる。

表5 評価の差異

	座席指定時	自由座席時	差異	傾向
学生A	集中できた	どちらかといえば集中できた	1	↘
学生B	どちらでもない	どちらかといえば集中できなかった	1	↘
学生C	集中できた	どちらかといえば集中できた	1	↘
学生D	どちらかといえば集中できた	どちらでもない	1	↘
学生E	どちらかといえば集中できなかった	どちらかといえば集中できた	2	↗
学生F	どちらかといえば集中できた	集中できた	1	↗
学生G	どちらかといえば集中できた	集中できた	1	↗

6.1.5 くじ引きによる座席指定時でのペアワークのメリットとデメリット

くじ引きによる座席指定で偶然隣に座った相手とペアワークをするメリット（問10）については、33名中31名が「知らない人と知り合える」を挙げていた（表6）。デメリットとして「知らない人と話さないといけない」を挙げた学生は4名で、いろいろなクラスメートと授業中に知り合うことをポジティブに受け止めている学生が多いことがわかる。他方、デメリットでは「相手に気を遣う」が19名と最も多く、また「会話がはずまない」を挙げた学生も10名いることから、

その時々相手の相手によっては、ペアワークがあまりうまく機能していないことがうかがえる。これは、メリットとして「相手に質問や相談ができる」を挙げた学生が1名だったのに対して、デメリットとして「質問がしづらい」を挙げた学生が9名いたことから読み取れる。また、「私語をしなくなる」反面、「会話がはずまない」ということも往々にしてあると考えられる。しかしながら、「クラスの雰囲気よくなる」と回答している学生が8名、「楽しく学習ができる」も7名おり、筆者もそのような印象を受けた。

アンケートでは、くじ引きでの座席指定やペアワークについての自由な感想や意見も尋ねた(問12・13)。座席指定については30名が、ペアワークについては27名の学生が何らかのコメントを書いてくれた(資料2・資料3)。これらのコメントから、座席指定やペアワークは概ね好意的に受け止められていることが分かった。特にペアワークに関しては、「楽しい」というコメントが多く見られ、有効な作業形態であることが確認された。

表6 座席指定時のペアワークにおけるメリットとデメリット

メリット		デメリット	
a. 知らない人と知り合える	31	a. 知らない人と話さないといけない	4
b. 授業に集中できる	5	b. 授業に集中できない	1
c. クラスの雰囲気が良くなる	8	c. 相手に気を遣う	19
d. 私語をしなくなる	7	d. 自分より出来ない相手に教えないといけない	0
e. 眠くならない	4	e. 楽しくない	2
f. 相手に質問や相談ができる	1	f. 会話がはずまない	10
g. ドイツ語を話す機会が増える	1	g. ドイツ語を話す機会が減る	0
h. 楽しく学習ができる	7	h. 質問がしづらい	9
i. 発表の機会が増える	2	i. 発表の機会が減る	5
どの項目も選択していない	0	どの項目も選択していない	10

7. インタビュー形式のゲームによるペア作りの試み

インタビュー形式のゲームを用いてペアを作り共同作業をすることを試みたのは、広島大学教育学部および文学部の学生から成るインテンシブコース²⁾のクラス(前期26名、後期27名)である。このクラスの学生は、週4コマ(火・水・木・金)の授業を履修している。そのうち2コマ(水・木)はドイツ人教員が担当し、2コマ(火・金)を筆者が担当した。教科書はいずれの授業も同じ物を使用し、授業はリレー形式で行われた。授業の内容は連絡帳にその都度記入し、口頭でも互いの授業の進捗や内容・問題点などを報告し合った。

このクラスの授業が行われた教室の座席は、教室の左右の端に4人掛けの机が、そして真ん中に6人掛けの机が縦に並んでいる。椅子は後ろの机の前面に取り付けられた折り畳み式のもので、机も固定されている、いわゆる Frontalunterricht (対面授業)のための教室である。教室には80名程度収容できるため、30名に満たないこのクラスにとっては少し大きすぎる。また、学生は往々にして教室後方の座席に着席したがりが、大きな教室では学生が点在していて、ペアワークやグループワークの際には相手を探したり座席を移動するのに時間がかかる。加えて、プリントなど副教材を配る際にも不便である。受講者が比較的少ないことや、学生の動機づけがベーシック

クラスより高いことを考慮して、このクラスではペア探しのゲームを導入し、毎時間のペアを決めることにした。座席はペアで相談して決めてよいが、前から5列目までに着席するように指示した。

ドイツ人教員が担当する2コマの授業では座席は自由にさせていたため、筆者の担当する授業では2コマともこのシステムを使ってペアを組ませることにした。

導入したゲームは、くじ引きに復習の要素を付与した形式のものである。準備するものは人数分の紙片とそれを入れる小さな箱である。紙片に1つの語を書き、同じものを2枚作製する。書かれている語が見えないように小さく折りたたんで、箱に入れて授業に持参した。これを学生にくじのように引かせてゲームを行う。ゲームは毎回次のような手順で行った。

- ①ある語の書かれた紙を学生に引かせる (例：r Pullover)
- ②書かれてある語の意味を各自確認させる
- ③その語句を用いて行う質問のパターンを説明 (例：Ich suche einen Pullover. Und du?)
- ④一定の時間を与え、同じ語の書かれた紙を持っている人を探させる

紙に書く語は既習のものに限定し、それを用いて行う質問もできるだけ前回の授業で学習したものに心がけた。また、同じ語を書いた紙は2枚だけ作製し、自分と同じ語を持っているクラスメートは1人だけしか存在しないようにした。遅刻してこのゲームに参加できない学生や欠席者がいる場合には、パートナーが見つからない場合も出てくる。そのような場合には、残った紙をもう一度引かせたり、紙に書かれた語で答えるのではなく学生自身について答えさせ、それと同一の語や意味的に似ている語 (例えば Mantel と Jacke), 対をなす語 (Tisch と Stuhl, heiß と kalt など) でペアを組んだチームに振り分けたりした。

7.1 アンケート調査

このクラスでのアンケート (資料4) は2006年12月19日に行い、当日出席していた26名から回答を得た。アンケートは無記名とし、成績には全く関係がないことを口頭でも説明した。

7.1.1 ペア探しによる座席指定についての印象

ペア探しによる座席指定については、このクラスでも概ね好意的に受け止められている (表7)。後期になって「どちらかといえば好ましくない」と回答した学生が1名いるが、この理由を「みんなが仲良くなってくると、グダグダになってしまっていたから」と述べている。この他にも前期は「どちらかといえば好ましい」、後期は「どちらでもない」と回答している学生がおり、同様に「ぐだぐだになることが多かった」と回答している。ゲームの最中には、仲の良いクラスメートにインタビューをする際に紙を見せるだけでドイツ語でのインタビューを行わなかったり、日本語で話をしたりする学生が見られたが、これらのコメントはこのような学生の態度を指しているものと思われる。

他方、前期より後期のほうが高い評価をしている学生も4名いた。その内の2名はその理由として、「毎時間一緒の人とは受けずにいろんな人と授業を受けるので、新鮮な気持ちで取り組める」、「クラス全員と仲良くなることができて良かった」とそれぞれ回答している。

表7 ペア探しによる座席指定をどのように思いましたか？

	前 期	後 期
1. 好ましくない	0	0
2. どちらかといえば好ましくない	0	1
3. どちらでもない	5	7
4. どちらかといえば好ましい	11	6
5. 好ましい	9	12
無回答 ³⁾	1	0

7.1.2 ペアワークでの自分の態度

このクラスでも、ペアワークの際の自分の態度は概ね協力的であったと評価されている(表8)。「どちらかといえば非協力的」と回答している学生が1名いるが、この学生はパートナーの態度については「どちらかといえば協力的な人が多かった」と回答してはいる。自由記述(資料6)では「週2コマくらいなら苦には感じない」と述べていることから、ペアワークを否定的には捉えていないが、クラスメートに対してうまく自己開示ができなかったのではないかとと思われる。

表8 ペアワークをする際の自分の態度

1. 非協力的	0
2. どちらかといえば非協力的	1
3. どちらでもない	5
4. どちらかといえば協力的	14
5. 協力的	6

7.1.3 ペアワークでのパートナーの態度

パートナーについても概ね協力的な印象を受けていたようである(表9)。ここで「どちらかといえば非協力的な人が多かった」と回答している学生は、ペア探しを前期は「どちらかといえば好ましい」、後期は「好ましい」と肯定的に捉えている。また、自由記述にも「学部の枠を超えていろんな人と話すことができよかった」、「ペアで作業をするので授業に集中しないと相手に悪い、と愚痴を授業に集中できた」との感想を書いていることから、パートナーの印象はそれほど良くなかったものの、この学生にとってはそれが学習の阻害要因にはならず、動機づけも維持されたものと考えられる。

表9 ペアワークをする際のパートナーの態度

1. 非協力的な人が多かった	0
2. どちらかといえば非協力的な人が多かった	1
3. どちらでもない	1
4. どちらかといえば協力的な人が多かった	14
5. 協力的な人が多かった	10

7.1.4 課題や授業への取り組み方

すでに述べたように、このクラスは筆者が担当する2コマ以外に、ドイツ人教員による授業も2コマある。また、そこでは座席やペアの指定は行われていない。そのためここでは、ドイツ人教員の授業との比較で課題や授業への取り組み方を答えてもらった(表10)。

11名の学生については、ペアや座席を指定しない場合との比較で集中度に変化がなかったと見られる。残りの学生に関しては、ペアや座席を指定することで集中の度合いが高まっている。

表10 課題や授業への取り組み方

1. 集中できなかった	0
2. どちらかといえば集中できなかった	0
3. どちらでもない	11
4. どちらかといえば集中できた	11
5. 集中できた	4

7.1.5 ペア指定時のペアワークにおけるメリットとデメリット

このクラスでは「相手に質問や相談ができる」をメリットとして回答した学生が多かった(表11)。自由記述(資料5・6)でも、相手に質問ができることを利点として挙げているコメントが多く見られた。前述のベーシッククラスでのアンケート結果と比較すると(図2)、この項目の差がもっとも大きいことが分かる。パートナーとの共同学習は、こちらのクラスのほうがより強化されていたと考えられる。また、自由記述からは、パートナーから良い刺激を受けたと報告するコメントも見られ、動機づけの強化にもつながったことが読み取れる。

デメリットに関しては(図3)、ベーシッククラスでは「発表の機会が減る」あるいは「楽しくない」と回答した学生がそれぞれ複数名いたのに対し、こちらのクラスでは皆無であった。パートナーが変わるといことが習慣化されたことにより、そのことが授業に対する姿勢には影響を与えなかったことが分かる。

表11 ペア指定時のペアワークにおけるメリットとデメリット

メリット		デメリット	
a. 知らない人と知り合える	24	a. 知らない人と話さないといけない	4
b. 授業に集中できる	8	b. 授業に集中できない	3
c. クラスの雰囲気良くなる	12	c. 相手に気を遣う	17
d. 私語をしなくなる	2	d. 自分より出来ない相手に教えないといけない	0
e. 眠くならない	10	e. 楽しくない	0
f. 相手に質問や相談ができる	16	f. 会話がはずまない	7
g. ドイツ語を話す機会が増える	9	g. ドイツ語を話す機会が減る	0
h. 楽しく学習ができる	13	h. 質問がしづらい	2
i. 発表の機会が増える	5	i. 発表の機会が減る	0
どの項目も選択していない	0	どの項目も選択していない	7

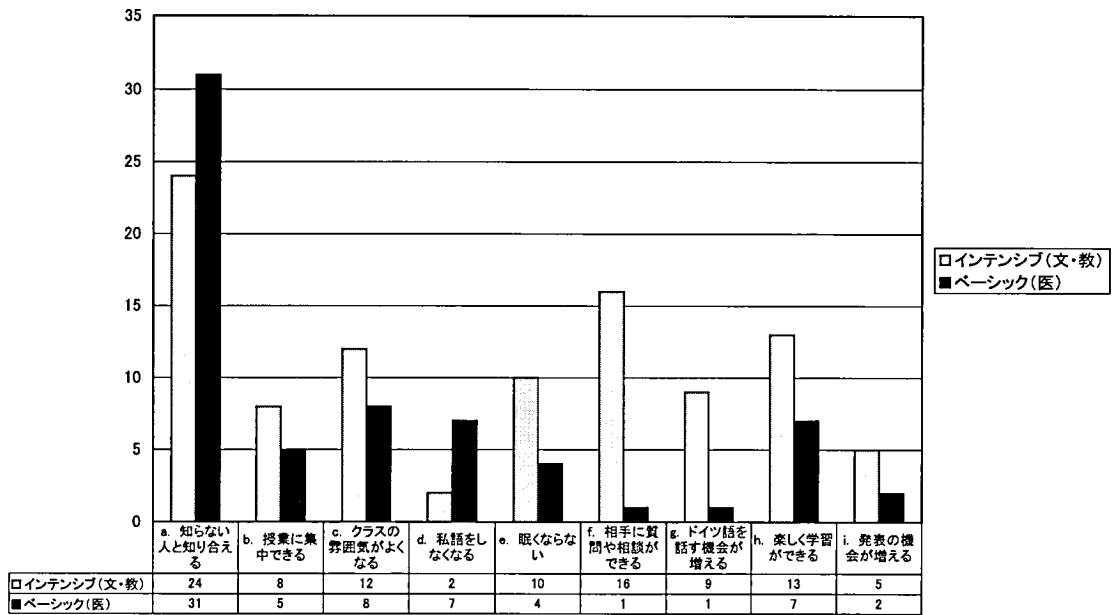


図2 ペアワークのメリット

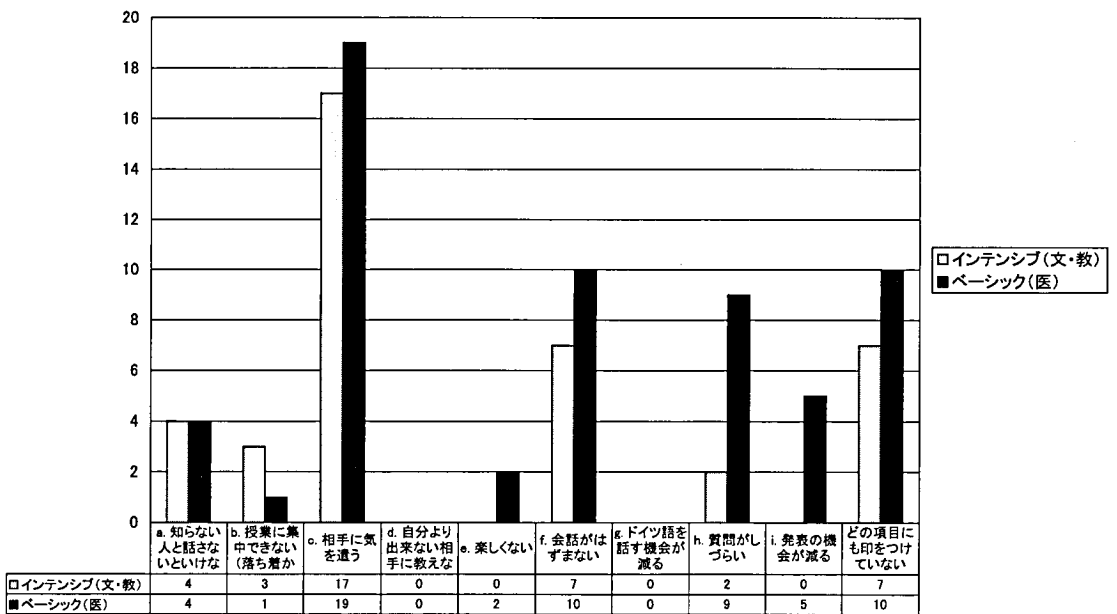


図3 ペアワークのデメリット

7.1.6 ペア探しのゲームについてどう思うか

先に述べたように、このクラスではカードに書かれた語や表現を使ってインタビューをさせ、同じカードを持っている相手を探させるというゲームを用いてペアを指定した。このゲームについては、「復習になってよい」、「学んだことを使えてよかった」あるいは「楽しい」と回答する学生が多かった(図4)。しかし後期になるとゲームにも新鮮味が欠けてきたようで、インタビューをきちんと行わない者も見られた。「その他」の欄に「ちゃんとする人とならない人がいるので、みんなにちゃんとしてほしい」と記入した者がいたが、この学生は自由記述(資料5)において「グダグダになってしまうので、少しずつパターンを変えるとよいと思う」ともコメントしている。このコメントからは、ゲームのパターンが固定化すると、時間は短縮されるものの、その効果が薄まってしまう場合があることがわかる。

ゲームが学習に役立ったかどうかについては、全員が「役立った」と回答している(表12)。その主な理由としては「復習になる」「ゲームで使うと頭に残りやすい」「話す機会が増える」などが挙げられた。

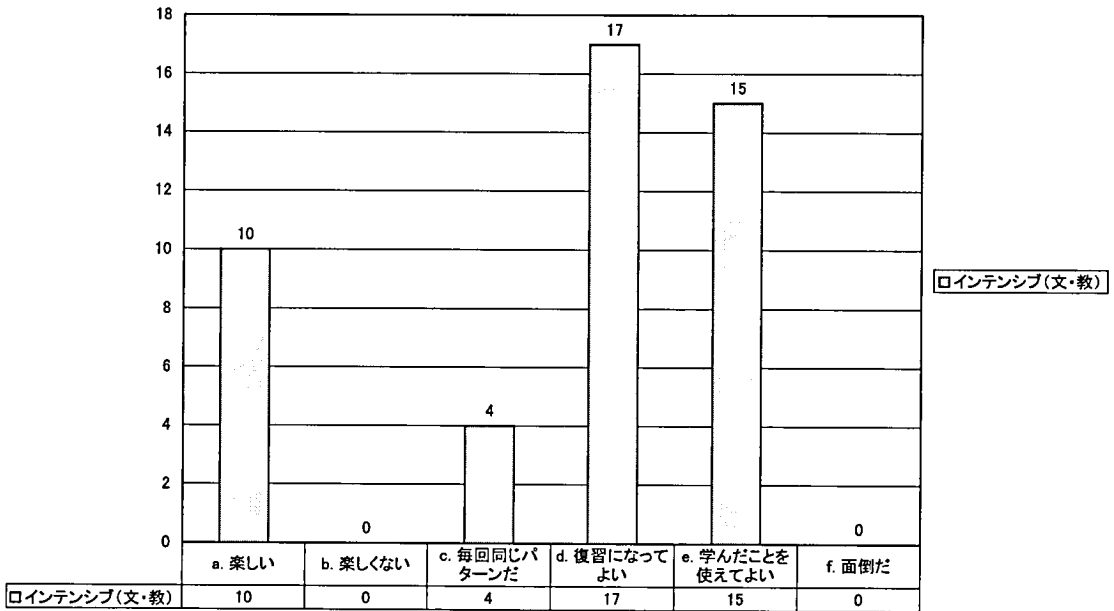


図4 ペア探しのゲームについてどう思うか

表12 ゲームは学習に役立ったと思いますか

役立った	26
役に立たなかった	0

8. まとめ

今回は、2つの異なる学習条件を持つクラスで、それぞれ別の手法を用いて座席やペアの指定と、ペアワークを導入した。アンケートではペアワークの経験の有無も尋ねたが、どちらのクラスでも半数の学生は高校や予備校などで経験があると回答した(表13)。その大多数が、英語の授業でペアワークを経験したと回答している。経験の有無は、今回筆者が実践したペアワークに対する印象や態度にさほど大きな影響を与えてはおらず、多くの学生が最初は戸惑いつつも、ペアワークを新鮮にそして好意的に感じているという印象を受けた。

座席指定の経験についてはベーシッククラスでのみ尋ねたが、約7割の学生が座席指定を高校や予備校で経験している(表14)。主な科目は英語や物理、化学や美術などであった。座席指定を導入するにあたり、学生にそれほど大きな抵抗がなかったのはこのことにも起因するのかもしれない。

表13 これまで高校や予備校などでペアワークを経験したことがありますか？

	ベーシック (医)	インテンシブ (文/教育)
経験あり	16	13
経験なし	17	13

表14 これまでに座席指定を経験したことはありますか？(ベーシックのみ)

経験あり	24
経験なし	9

インテンシブクラスの学生は総じてドイツ語学習に対する動機づけが高く、授業時間数もベーシッククラスの2倍、しかもクラスの人数はベーシッククラスの3分の2であるため、授業に対する姿勢が異なると言える。したがって、これら2つのクラスを単純に比較することは難しいが、どちらのクラスにおいても学生はペアワークを通じてクラスメートと知り合うことには好意的であり、共同作業をする際にも協力的な姿勢で臨んでいる。筆者の印象では、ベーシッククラスで自由な座席の場合、やはり私語が多く、アンケートの結果では「発表の機会が減る」⁴⁾という答えも見られたが、実際には、自由座席時にはいつも決まった顔ぶれが積極的に手を挙げて発表しており、むしろ座席指定を行った場合のほうが、様々な学生が発表を行っていた。また、自由座席では同性同士のペアが大半を占めたが、座席指定を行った場合にはパートナーが異性であることも多く、クラスの雰囲気も和やかであった。

ペアワークについての学生の自由記述(資料6)に、「たまにやるのではなく、毎回やったから効率よく仲良く楽しくできたと思う」とあるが、この指摘は重要である。いずれのクラスも1年生のクラスであり、同じ学部であったとしても、前期の授業ではまだそれほど学生間の人間関係は確立されていないため、座席やペアを指定することに対しても抵抗があまりなく、ペアワークは知らないクラスメートと知り合う良い機会となっている。また、座席やペアを決める作業も継続して行うことで、学生がその手順に慣れ、時間が短縮される。ベーシッククラスでは、教室の構造と人数に合わせてくじ引きを導入したが、くじ引きに比べ時間がかかることや準備の手間はあるものの、ゲームを使ってペアを組ませる方が学習に対するプラスは大きいようである。

また、筆者のクラスでは課題に取り組む際だけでなく、例えば、全体で課題の答え合わせをする前にペアで確認をさせたり、教科書の会話を音声教材で聴く前にペアで発音できるか試してみようという具合に、授業の様々な段階でペアワークを導入している。そうすることで、授業中にパートナーとコミュニケーションを取る機会が多くなり、それを毎回異なるパートナーと繰り返すことにより、多くのクラスメートと話をすることになる。このことが、クラスの雰囲気を作り和やかに、協力的にすると考えられる。

ペアワークについては、純粋な言語学習という観点からはその短所も報告されている（平田 2002, 2003）。たしかに、授業で取り扱う内容や学習目標によっては、ペアワークが効率の悪い作業形態となることもあるだろう。しかし、どのような授業も、単なる知識や技術の習得の場というだけでは教育的な配慮に欠ける。

ジョンソンら（2001, pp.17-24）は、新しい大学教育のパラダイムを、教育は共同して学習する学生同士の、そして教員と学生の間の人間的なやりとりであると述べ、共同学習においては競争的な学習や個別学習よりも高い成績、協調的な人間関係、より望ましい精神面での適応をもたらすとしている。しかしこれらは、ペアワークやグループワークを単発的に行っただけでは得られない。クラスメートが自分にとって協力者として機能し、自分もまたクラスメートにとって協力者として機能することを継続的に体験させる必要がある。その意味でも、ペアワークやグループワークを様々な場面や課題において導入することは意義があり、その結果として効果的な外国語習得も期待できる。

註

- 1) 外国語授業は、授業内で完結しているものではない。大学や学校といった「機関・制度」の中で授業は行われており、大学・学校は「社会」の中に存在している。また、授業はこれらの社会的なコンテキストからの影響を受けるだけでなく、影響を与えることもある。加えて、授業内部を構成する「学習者」「教師」「教材」「教室・機材」もまた、それぞれが外部へ影響を及ぼしたり、影響を受けたりする。
- 2) 広島大学では大多数の学部において、教養教育科目としての第2外国語を4単位履修することが義務付けられている。ドイツ語に関して言えば、週2コマの授業から成るベーシックドイツ語Ⅰ（前期）およびⅡ（後期）を1年間履修することになる。インテンシブクラスでは、加えて母語話者教員による授業を4単位履修する。
- 3) このクラスには、後期に他のクラスから移ってきた学生がおり、この学生が前期については無回答とした。
- 4) ここで言う発表とは、自分達で作った会話を発表したり、教科書の会話の日本語訳をペアで会話形式として発表したりすることを指す。筆者のクラスでは、発表は通常このようにペア単位で行い、発表をしたペアには、内容の良し悪しに関わらずそれぞれの学生に平常点のプラスポイントを与えている。

参考文献

- 平田裕 (2002) : 「ペアワークの功罪」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』第12号 pp.83-114
- 平田裕 (2003) : 「ペアワークの功罪Ⅱ」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』第13号 pp.15-36
- K・ジョンソン／H・ジョンソン編, 岡秀夫監修 (1999) : 『外国語教育学大辞典』大修館書店
- D. W. ジョンソン／R. T. ジョンソン／K. A. スミス, 岡田一彦監訳 (2001) : 『学生参加型の大学授業』玉川大学出版部
- LANGMAACK, Barbara/BRAUNE-KRICKAU, Michael (2000): *Wie die Gruppe laufen lernt.* Weinheim: Beltz-PVU
- SCHWERDTFEGER, Inge C. (1989): *Gruppenarbeit und Partnerarbeit.* In: BAUSCH, Karl-Richard u.a. (Hrsg.): *Handbuch Fremdsprachenunterricht.* Tübingen: Francke, pp.171-173
- SCHWERDTFEGER, Inge C. (2001): *Gruppenarbeit und innere Differenzierung.* Fernstudieneinheit 29. Berlin: Langenscheidt
- 吉島茂／境一三 (2003) : 「ドイツ語教授法 科学的基盤作りと実践に向けての課題」三修社
- 吉満たか子 (2004) : 「学習者自身による『授業の記録』導入の試み」『学習者中心の外国語教育をめざして 流通科学大学ドイツ語教授法ワークショップ論文集』板山真由美／森田昌美編, 三修社

7. 自由な座席の時（木曜日）にペアワークをする際のあなたの態度として最も近いものに○を付けてください。
1. 非協力的
 2. どちらかといえば非協力的
 3. どちらでもない
 4. どちらかといえば協力的
 5. 協力的
8. 自由な座席の時（木曜日）にペアワークをする際のパートナーの態度として、あなたが最も多く経験したものに○を付けてください。
1. 非協力的な人が多かった
 2. どちらかといえば非協力的な人が多かった
 3. どちらでもない
 4. どちらかといえば協力的な人が多かった
 5. 協力的な人が多かった
9. 自由な座席の時（木曜日）にペアワークをする際に課題や授業への取り組み方はどうでしたか？最も多く経験したものに○を付けてください。
1. 集中できなかった
 2. どちらかといえば集中できなかった
 3. どちらでもない
 4. どちらかといえば集中できた
 5. 集中できた
10. くじ引きによる座席指定で偶然隣に座った相手とペアワークをする場合のメリット（プラスになる点）は何ですか？当てはまるものすべてに○を付けてください。また、他にもあれば自由に書いてください。
- | | | |
|------------------|--------------|-----------------|
| a. 知らない人と知り合える | b. 授業に集中できる | c. クラスの雰囲気よくなる |
| d. 私語をしなくなる | e. 眠くならない | f. 相手に質問や相談ができる |
| g. ドイツ語を話す機会が増える | h. 楽しく学習ができる | i. 発表の機会が増える |
- その他()
11. くじ引きによる座席指定でのペアワークのデメリット（マイナスである点）は何ですか？当てはまるものすべてに○をつけてください。また、他にもあれば自由に書いてください。
- | | |
|--------------------|--------------------------|
| a. 知らない人と話さないといけない | b. 授業に集中できない（落ち着かない） |
| c. 相手に気をつかう | d. 自分よりできない相手に教えなければならない |
| e. 楽しくない | f. 会話がはずまない |
| g. ドイツ語を話す機会が減る | h. 質問や相談がしづらい |
| | i. 発表の機会が減る |
- その他()
12. くじ引きによる座席指定についてあなたの意見や感想を自由に書いてください。
13. ペアワークについてあなたの意見や感想を自由に書いてください。

Vielen Dank!

【資料2：くじ引きによる座席指定についての意見や感想（ベーシック・医学部）】

- ・特に悪いと思わない。
- ・ゲーム性があっていいと思う。
- ・色々な人と会話できて良かったと思う。
- ・結構楽しくできた。
- ・どちらかといえば自由席にしてもらいたいので、あまりくじ引きはしたくない。
- ・このまま続けていっていいと思う。
- ・知らない人と話せていいと思う。
- ・めったにないがたまに全く話さない人がいるので困る。
- ・週一でやるのは、いいと思う。
- ・最初はびっくりしたけど、このままでいいと思う。
- ・列だけではなく、席を指定してくれた方が楽。
- ・いつも同じ人と座るとあきてくるから、くじ引きで新しい人と座るのは楽しかった。
- ・今のように、1日は指定で1日は自由であるという制度が好きです。
- ・知らない人と話す機会が増え、クラスの雰囲気も明るくなった気がします。
- ・月、木2回とも指定だったら嫌かもしれないけど、週に1回だけなので気にならないし、いいと思います。
- ・毎回の授業にランダムな要素があった方がよい。そうでなければマンネリ化してしまう。
- ・今後、継続させてもよいと思う。
- ・今のままが一番良いと思う。
- ・あってもなくてもどっちでもよい。
- ・日々の生活に刺激をあたえてくれる。
- ・特に問題はないと思います。
- ・全くペアワークをしてくれない人の隣になった時に本当に困った。
- ・別にかまわない。むしろ面白いかも。
- ・なによりドイツ語の授業で友人が増えるのが良い点だと思う。また後期になるとどうしても授業に新鮮味がなくなり、集中力が低下しがちであるので、モチベーションを保つためにも座席指定は必要だと思う。
- ・あまり話さない人と話す機会になるので良いと思う。
- ・可もなく不可もなくといった感じがする。現在のやり方を続ければよいと思う。
- ・席指定はあってもなくてもそう問題ないと思います。今のままでいいと思います。
- ・普通の座席指定の方がいいと思う。
- ・座席指定なのはどちらもいいです。別にくじじゃなくてもいいかなとは思いますが、
- ・面白いと思いますよ。

【資料3：ペアワークについての意見や感想（ベーシック・医学部）】

- ・退屈しないですむ。
- ・あまり好きじゃないです。しゃべりかけても答えてくれない人とかいるし。
- ・ペアより1人のほうが集中できると思う。
- ・今のままでいいと思います。
- ・とくになし。
- ・座学だけよりは良いと思う。
- ・知識を補い合えるのでよいと思う。
- ・特に嫌とかではないけど、たまに非協力的な人がいて困る。
- ・読み方の確認はペアワークにしないでいいと思った。
- ・楽しく授業をうけれると思います。
- ・ペアワーク、おもしろいです。
- ・今のままが一番良いと思う。
- ・授業が楽しくなるのでよいと思う。
- ・一人だけでは眠くなってしまうので、ペアにした方がよい。集中できる。
- ・ずっと聞くだけじゃ退くつだし、協力してやるペアワークは楽しくて好きです。
- ・他の授業と違い会話をする機会が多く頭に入りやすくて楽しかったです。
- ・たくさんの人と話す機会が増えてよかったと思います。
- ・退屈なくて楽しい。
- ・漫然と授業を聞くだけにならないのが良かった。
- ・実践的な会話ができて、いいと思う。
- ・自分達で解決しようとする道具になるのでよいと思う。
- ・楽しく授業ができていいと思う。
- ・特に不満な点はない。
- ・特にナシ。
- ・ドイツ語の会話の練習にはペアワークは良かったと思う。
- ・他人の意見が聞けていいと思う。
- ・ペアが非協力的な人だとやりづらい。

【資料4：アンケート用紙（インテンシブ用）】

授業における作業形態についてのアンケート

19. Dezember 2006

このアンケートは成績とは全く関係ありませんので、自由に答えてください。

このクラスでは毎時間、インタビュー形式のゲームによるペア作りを行いました。このゲームとペアワークについてお尋ねします。

1. これまで高校や予備校などで、ペアワーク（2人一組で作業を行う）を経験したことがありますか？ある場合には、どの教科でペアワークが行われたかを書いてください。
 - ・ある()
 - ・ない

2. ペア探しによる座席指定をどのように思いましたか？前期・後期それぞれの印象に当てはまる項目の番号に○を付けてください。

前期：1. 好ましくない 2. どちらかといえば好ましくない 3. どちらでもない
4. どちらかといえば好ましい 5. 好ましい
その理由()

後期：1. 好ましくない 2. どちらかといえば好ましくない 3. どちらでもない
4. どちらかといえば好ましい 5. 好ましい
その理由()

3. ペアワークをする際のあなたの態度として最も近いものに○を付けてください。
 - 1. 非協力的 2. どちらかといえば非協力的 3. どちらでもない
 - 4. どちらかといえば協力的 5. 協力的

4. ペアワークをする際のパートナーの態度として、あなたが最も多く経験したものに○を付けてください。
 - 1. 非協力的な人が多かった 2. どちらかといえば非協力的な人が多かった
 - 3. どちらでもない 4. どちらかといえば協力的な人が多かった 5. 協力的な人が多かった

5. ゲームで決定したペアワークをする際に課題や授業への取り組み方はどうでしたか？○○先生の授業でペアを作らずに取り組む場合と比べて、最も多く経験したものに○を付けてください。
 - 1. 集中できなかった 2. どちらかといえば集中できなかった 3. どちらでもない
 - 4. どちらかといえば集中できた 5. 集中できた

6. ゲームでペアになった相手と作業（ペアワーク）をする場合のメリット（プラスになる点）は何ですか？当てはまるものすべてに○を付けてください。また、他にもあれば自由に書いてください。
- a. 知らない人と知り合える b. 授業に集中できる c. クラスの雰囲気よくなる
d. 私語をしなくなる e. 眠くならない f. 相手に質問や相談ができる
g. ドイツ語を話す機会が増える h. 楽しく学習ができる i. 発表の機会が増える
- その他()
7. ゲームでペアになった相手とのペアワークのデメリット（マイナスである点）は何ですか？当てはまるものすべてに○をつけてください。また、他にもあれば自由に書いてください。
- a. 知らない人と話さないといけない b. 授業に集中できない（落ち着かない）
c. 相手に気をつかう d. 自分よりできない相手に教えないといけない
e. 楽しくない f. 会話がはずまない
g. ドイツ語を話す機会が減る h. 質問や相談がしづらい i. 発表の機会が減る
- その他()
8. ペア探しのゲームについてどう思いますか？当てはまるものすべてに○を付けてください。また、他にもあれば自由に書いてください。
- a. 楽しい b. 楽しくない c. 毎回同じパターンだ
d. 復習になってよい e. 学んだことを使えてよい f. 面倒だ
- その他()
9. ペア探しのゲームは学習に役立ったと思いますか？その理由も書いてください。
- ・役立った
 - ・役に立たなかった
- その理由()
10. 毎回異なる相手と作業をすることについてあなたの意見や感想を自由に書いてください。
11. ペアワークについてあなたの意見や感想を自由に書いてください。

Vielen Dank!

【資料5：毎回異なる相手と作業をすることについての意見や感想（インテンシブ・文／教育）】

- ・親しい人とペアになれば気が楽だけど、そうでない人だと気を遣うこともある。でも苦痛とまでは思わないし色々な人と話せるいい機会だと思う。
- ・質問したりわからないことについて話せるので、その点は良いと思う。相手と仲良くなれるので良いと思う。
- ・かなり気をつけて楽しくないときもあるが、会話がはずんで楽しいときもある。
- ・はじめは知らない人ばかりだから緊張したしあまり話せなかったけど、慣れるとみんなフレンドリーな人たちだったので楽しく授業ができてよかったです。
- ・ドイツ語を通して知り合いができる点はとてもいいと思う。
- ・毎回新鮮な気持ちで授業に臨める。クラスの雰囲気格段によくなるといった。普段話せない教育とか他の学部の生徒とも知り合えてよかった。
- ・来年も続けたほうが良いと思います。
- ・よく勉強をしてドイツ語をがんばっている人が相手だと自分にとってよい刺激になって勉強をする気になれるのでよかった。学部の枠を超えている人々と話すことができてよかった。
- ・大学に入ってすぐにペアワークをやった時は戸惑ったけど、他の授業ではここまでクラスの仲が良くなることはないし、自分の学部を超えて一緒にドイツ語を学ぼうとする意欲のある人と友達になることができ、とても良い経験になったと思う。これからも是非続けてほしいです。
- ・いろんな人と話せて楽しかったです。だいたいの人ともう仲良くなれたので今はそのままでもいい気がします。
- ・他の授業だと学部の知り合い同士でかたまる事がどうしても多くなるので、多少気をつかう部分を差し引いても色々な人と授業を受けられるのは良い事だと思います。
- ・毎回同じ人だと、ついついあきてしまい、寝てしまったり人まかせだったりするし、授業に関係ない話も増えるが、異なる相手だと集中できるし、時間が短く感じる。
- ・週に4回も授業があるので、毎日同じ相手と作業するよりも刺激があっていいと思います。
- ・最初は緊張してお互い気まずい時もあったけど、今は楽しく感じています。
- ・気はつかうけど、慣れ合いになったりすることはあまりないのでいいと思う。グダグダになってしまうので、少しずつパターンを変えるとよいと思う。
- ・気をつかうことも多かったけれど、その分学習に集中できた。
- ・もう少しペアを変える回数を少なくして、一人の人と今より長く作業をするようにすれば良いと思う。
- ・楽しいときもあるし、少し気まずいときもあるから、どちらともいえない。最初はすごく緊張して、授業どころじゃなかったけど、慣れれば平気。
- ・楽しくできた。
- ・クラスの中の知らない人との交流のきっかけになって良い。(好きな者同士だと最初から知っている者同士でかたまるので知らない人との交流がもてない)
- ・+：色々な考え方に会える／お互いに教えあいが出来て自分の勉強になる
- ・-：相手との関係を一から築かないといけないのは少し疲れる。
- ・ペアワークをしなければ話さないような人と話ができよかったです。
- ・他の授業との差はあまり感じない。

【資料6：ペアワークについての意見や感想（インテンシブ・文／教育）】

- ・楽しいし、1人でするよりも質問とかできてより作業がしやすいと思います。
- ・ドイツ語の授業は1人ではわからないことが多々あるので、どんな人であろうと2人で相談して授業を進められるのはありがたいと思います。
- ・会話等の練習時には相手が必要だがそれ以外の時にペアワークを行う必要性がないと感じることが多い。往々にして効率が悪くなるから。
- ・会話が苦手なのでつらいときもたまにあります。
- ・ペアワークは大学ではこのドイツ語のクラスでしかしていないけど、とても楽しくて、毎回「だれとなるんだろう??」とわくわくしています。これはとてもよい授業の仕方だと思います。
- ・ペアワークは続けるべきだと思うけど、もう少しペアを毎回バラバラにできるような工夫があったらと思います。
- ・2人でやると、互いにわからないことを質問しあえたり、確認しあえて、とても有意義だったと思う。たまにやるのではなく、毎回やったから効率よく仲良く楽しくできたと思う。
- ・1人で受ける授業と違い、ペアで作業をするので授業に集中しないと相手に悪いと思えて授業に集中できた。
- ・分からないことや、自分では分かっているつもりであったことがペアワークをすることにより再確認することができ、とても学習効率が向上し良いと思いました。
- ・お互いの刺激になっていいと思います。分からないところも質問できてよかったです。
- ・ペアワークのデメリットの項ではああ書いたが*、週2コマくらいなら苦には感じない。
- ・とてもよいと思う。これからもやっていきたい。むしろ〇〇先生**の授業もそれをやってほしい。
- ・ランダムで決まっているはずなのに、絶対一緒にならない人がいたり、よく一緒になる人がいるのは不思議だなと思います。
- ・分からない所を相手に質問したりできるので嬉しい。
- ・1人より絶対ペアワークがいい。
- ・ペアワークは前期だけでいいと思った。
- ・初めてペアになった人とうまく話せない人もいると思うので、一授業ずつペアを変えるのではなく、二授業ごとくらいで変えればいいと思う。
- ・1人で考えるより楽しく授業を受けられる。
- ・とてもいいと思う。
- ・会話は相手がいないと成立しないので、会話表現の練習にはペアワークは欠かせないと思う。また、実際に会話することで、時には教科書にのっていない表現を使う必要が生まれる場合もあるので、自主性を高めるのにも有効ではないだろうか。
- ・相手ときちんとコミュニケーションが取れば楽しくなるし、時間がたつのを忘れてしまう。相手が非協力的であったりすると対応に困るし、もったいないと思う。
- ・1人でやるよりも、相手がどれくらい勉強したり、理解しているのかがわかって、良い刺激になりました。楽しく勉強できて良いと思います。
- ・席を移動するのが少し面倒。

* アンケートの間7でこの学生は、「相手に気を遣う」「会話がはずまない」を挙げており、このことを指すと思われる。

** 同じクラスを担当している教員

ABSTRACT

The Practice and Effects of Learning with Pair Work in German Classes

Takako YOSHIMITSU

Institute for Foreign Language Research and Education

Hiroshima University

In every foreign language class, as teachers well know, there are some problems which occur to varying degrees: not all exercises work as planned, some students are not active enough, the classroom is too hot or too cold, and so on.

These problems are caused by one or more of four components of a class: the students, the teacher, teaching materials, and the classroom. All of them contain a physical element, and with the students and the teacher there are also psychological and social elements. It is often difficult and sometimes impossible to solve physical problems. But psychological and social problems could be solved or avoided; for example, when a student finds the German language very difficult to learn and therefore the class too. One of the "precautions" against such problems might be to establish a cooperative atmosphere in the classroom.

To this end, draws and games were used in two German classes for freshmen in both semesters of 2006 to decide the seat arrangement or a partner for pair work. In addition, the students were surveyed to determine their opinions on the draws and games.

This article reports on the practice and effects of deciding the seat arrangement or partner for pair work in the classroom. Results of the questionnaires show that most of the students have a positive impression of this practice and that the resulting pair work contributed to better cooperation in the classroom.